

なかゆくい

沖縄の自動車とナンバープレートのあれこれ

【運輸部車両安全課】



沖縄で初めて走った自動車

沖縄に初めて自動車が登場したのは、今から95年前の大正5年に、那覇の大坪商店の大坪岩次郎が宣伝目的で購入したのが最初とされています。

その自動車は、アメリカ・フォード社のT型フォード、2.9リッター、4気筒のガソリン（当時のガソリンの呼称）エンジン車で、現在の自動車と違って、車体の前にあるクランクを力強く回してエンジンを始動させる方式で、そのエンジン音は「爆発音」といわれ、大人もびっくりして逃げ出すほどの大きな音であったとされています。

当時の自動車の速度は、現在の自動車で約50分程度でたどり着く那覇〜名護間を5時間かかったとされており、かなり遅い速度であったようです。

当時は運転免許制度もなかったようで、運転手は目的地までたどり着くか戦々恐々で休憩（ラジエターに水を補給しながら）しながら走行したかも知れません。



このナンバープレートの意味、誰か分かる〜？



はあ〜むづかしいさ〜



昭和38年頃の
事業用ナンバープレート



昭和26年頃の路線バス



昭和26年頃のタクシー



昭和38年頃の
事業用ナンバープレート



昭和29年頃のトラック



昭和38年頃の
自家用ナンバープレート



昭和47年の本土復帰に伴う
通貨交換の現金輸送トラック



昭和29年頃の
事業用ナンバープレート

ナンバープレートの様式を定めていた琉球政府令(抜粋)と当時のナンバープレート

ナンバープレートの変遷(種類)

沖縄の自動車の登録・検査制度のはじまり

沖縄における自動車の登録・検査制度は、1947年8月15日に軍政府からGMC2トン半トラック、720両の提供を受けたときから始まりました。1948年当時は、警察局交通課で登録業務を行い、1952年の琉球政府発足に伴い、運輸局陸運課に登録検査業務が引き継がれ、政府業務としてスタートしました。

しかも、なんと当時(1954年)から、現在のような民間車検場がありました。それは窓口業務が煩雑しているとして、米国民政府の指示により琉球政府職員(4名)に政府業務(自動車検査業務)を代行させていたのであります。今という民間活力を生かした行政であったようです。

1954年(S.29)～

自動車登録番号表



臨時運行許可番号標



(事業用は黒地に白文字)



Aは事業用を表す

(自家用は白地に黒文字)



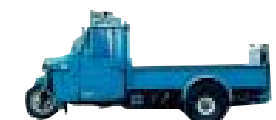
Bは自家用を表す



Fは琉球籍以外を表す



Yは八重山を表す



1963年(S.38)～



1966年(S.41)～



1972年(S.47)～現在



車種別番号

1	貨物自動車
2	乗合自動車
3	10名以下の乗用車
4	小型四輪貨物車
5	小型四輪乗用車
6	三輪貨物自動車
7	三輪乗用自動車
8	特殊用途自動車
9	特殊自動車



臨時運行許可番号標

